

7月 学校だより

心に刻まれた6月

5月に体育祭を終え心も体も成長した生徒たちにとって、心に刻み込まれたであろう行事がいくつかあった6月になったのではないかと思います。その中から、2つ報告します。

平和・人権講演会（6月20日（木））

戦後79年を経て戦争の記憶や記録が薄れゆく中、講師に久生屋町在住の作家 中田重顕さん、朗読に御浜町在住の阪本浩子さんをお招きし、戦争体験者から聞き取った戦争の実態や事実をもとにした平和・人権講演会を開催しました。



講演の中では、第2次世界大戦で、有馬・金山・久生屋地区だけで230人もの人々が戦死されていること、そしてその後ろには悲しみに沈む何十倍もの遺族がいること、さらに、もっともひどい目にあったのは沖縄であったことなどのお話がありました。沖縄は住民が戦火に巻き込まれる地上戦の行われた唯一の県で、民間人だけで約10万人が亡くなったことや、沖縄戦の悲劇を象徴する沖縄学徒隊、特に女子学徒隊の悲劇についてのお話がありました。

生徒たちと同世代の女子学徒が無念の死を迎えた際の最期の言葉、「おかあさん…」

阪本さんの朗読でこの言葉を聞いたときには、胸がいっぱいになりました。

心に深く刻まれました。

最初から最後までしっかりと聞き入る生徒たちの姿から、命の大切さ、そして、戦争は最大の人権侵害であるということが確認できたのではないかと感じました。

新日本フィルハーモニー交響楽団弦楽四重奏鑑賞（6月21日（金））

三重県文化会館主催による新日本フィルハーモニー交響楽団（新日フィル）巡回事業が本校で開催され、生徒たちが超一流の弦楽四重奏を生で体感しました。

新日フィルから、竹中勇人さん（ヴァイオリン）、吉村知子さん（同）、高橋正人さん（ヴィオラ）、佐古健一さん（チェロ）に來訪いただき、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、猫の鳴き声にも聞こえる「ザ・ワルツィング・キャット」、弓ではなく指で弦を弾いて奏でる「リンク・プランク・プルンク」、「有馬中校歌」などを次々と演奏いただきました。



プロの演奏家が奏でる本物の音楽を聞き入った生徒からは、「動画と違い、生の演奏は感動した」といった感想が出ていました。生の演奏は、生徒たちの心にしっかり届いたことと思います。

なお、9月16日には熊野市民会館で新日フィルによる熊野古道世界遺産登録20周年スペシャルコンサートも開催予定となっています。

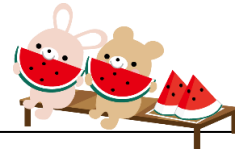
地区中体連総体

熊野市・南牟婁郡地区中学校総合体育大会が、「鍛えよう 心とからだ、広げよう友情の輪」をスローガンとし、7月6日（土）・7日（日）（種目により13日（土）・14日（日））に開催されます。運動部活動に所属の中学生にとって、目標にしてきた最大で最高の大会、子どもたちの活躍に大いに期待しています。

なお、熱中症対策として、どの競技においても、暑さ指数（WBGT）を定期的に計測し、その数値が31以上になった場合は、中断するなどし対応を協議することになっています。

保護者の皆様には、マナー等を守った上で、各競技でのあつ〜い応援をよろしく願います。また、その際に撮影した画像等は、SNS等には絶対に掲載しないよう願います。

7月の行事予定



- 7月 2日（火）～4日（木） 救急救命法講習会（3年→2年→1年）
※熊野市消防本部の救急救命士の方に指導いただきます
- 5日（金） 中体連壮行会
- 6日（土）・7日（日）（種目により13日（土）・14日（日））
熊野市・南牟婁郡地区中学校総合体育大会
- 9日（火）～11日（木） 個別懇談会
- 12日（金） 職場体験事前講演会（2年）
- 18日（木） 大掃除
- 19日（金） 1学期終業式



6月14日（金）に第1回 有馬中 学校運営協議会を開催しました。

学校運営協議会は、市内全ての小中学校にそれぞれ設置されており、そこでは保護者や地域住民の学校運営への参画を進めるとともに、学校・保護者・地域住民間の信頼関係を深め、子どもたちの豊かな学びと育ちを創造していくために、教育委員会から任命された委員のみなさんに協議をいただく会です。

今年度は、会長に有馬町の岩本育久さん、副会長に育友会会長の福田稔史さん、委員には、有馬町の速水仁子さん、金山町の榎本俊一さん、榎本周子さん、久生屋町の高橋浩明さん、杉本和巳さん、そして育友会母親部長の仲森有美子さんの計8名のみなさんに就任いただきました。

今年度これまで、委員のみなさんには、授業参観や体育祭、平和・人権講演会等の行事に可能な範囲で参加いただき、生徒たちの姿を見ていただきました。

6/14の第1回協議会では、今年度の学校運営の進め方等について様々な角度から協議いただきました。その中で、生徒のスマホの状況についての意見がありました。

「最近の中学生は、多くの子がスマホを持っており、トラブルとかにまきこまれているのではないかと心配する。」

「中には、家庭の方針でスマホを持たせていないところもあるのではないかな。子どもの“みんな持っている”という言葉で、買いあたえてしまっている家庭もあるのではないかな。」

「スマホの使い方については、学校での指導と家庭の協力が大切ではないかな。」

といった意見をいただきました。

これらを受け、再度、スマホ等の使い方等について、生徒に指導するとともに、個別懇談会で保護者のみなさんに協力をお願いしていくことにしました。

ご家庭に置かれましても、ご協力のほど、よろしく願います。



校長 伴 充